

研究実施のお知らせ

研究課題名： 医療用麻薬の自己管理運用に向けた当院での取り組み

研究期間： 仙台市立病院倫理審査委員会承認後～令和8年10月

仙台市立病院では、倫理審査委員会の承認及び院長の許可の基、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和3年6月30日施行）に基づき、匿名化された診療録等の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2025年11月から当院において、オプソ内服液、オキノーム散などの医療用麻薬のレスキュー薬を内服している患者さん

【研究の目的と意義】

がん治療を受けている患者さんの痛みを緩和するためには、医療用麻薬(以下、麻薬)の適正使用が重要となります。麻薬は入院中であっても自己管理可能ですが、これまで当院では一律、病棟で管理をしておりました。しかし、入院前は自己管理していたにも関わらず、入院中に病棟管理になることで、医療従事者への遠慮からレスキュー薬使用をためらう懸念があり、退院後にレスキュー薬を決められた通り使用できなくなる恐れがあります。また、麻薬を入院中に自己管理することでがん性疼痛が抑えられたという報告も複数あります。

当院では2025年11月から自己管理運用を開始しており、医療用麻薬の適正使用の推進、入院患者の疼痛コントロール、入院患者の退院後のレスキュー薬使用の有無、レスキュー薬への理解度向上に寄与することを目的として、運用開始に至るまでの取り組みと、運用実績を報告いたします。

【研究の方法】

運用開始前に院内の医療用麻薬の管理マニュアル、自己管理アセスメントシート、自記式の服薬記録、患者向け指導箋を作成。自己管理の希望があることを前提に、作成した自己管理アセスメントシートを用いて評価し、医師、看護師、薬剤師がそれぞれ自己管理可能と判断した患者を対象に運用を開始しています。

2025年11月からレスキュー薬を内服している患者を対象にアドヒアランス確認、疼痛評価、副作用評価をおこないます(疼痛評価についてはNRSを用いる)。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報(薬剤データ、診療記録、検査データ等)を、研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【利益相反の状況】

この研究は、外部の企業等からの資金の提供を受けておりません。研究者が企業等から独立して計画し実施することから、特定の企業が研究結果および解析等に影響を及ぼすことはありません。

【研究の実施体制】

研究代表者

仙台市立病院 薬剤科 薬剤師 三塚 健司

この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その患者様の情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

【お問い合わせ先】

仙台市立病院 薬剤科

薬剤師 三塚 健司

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111（代表）